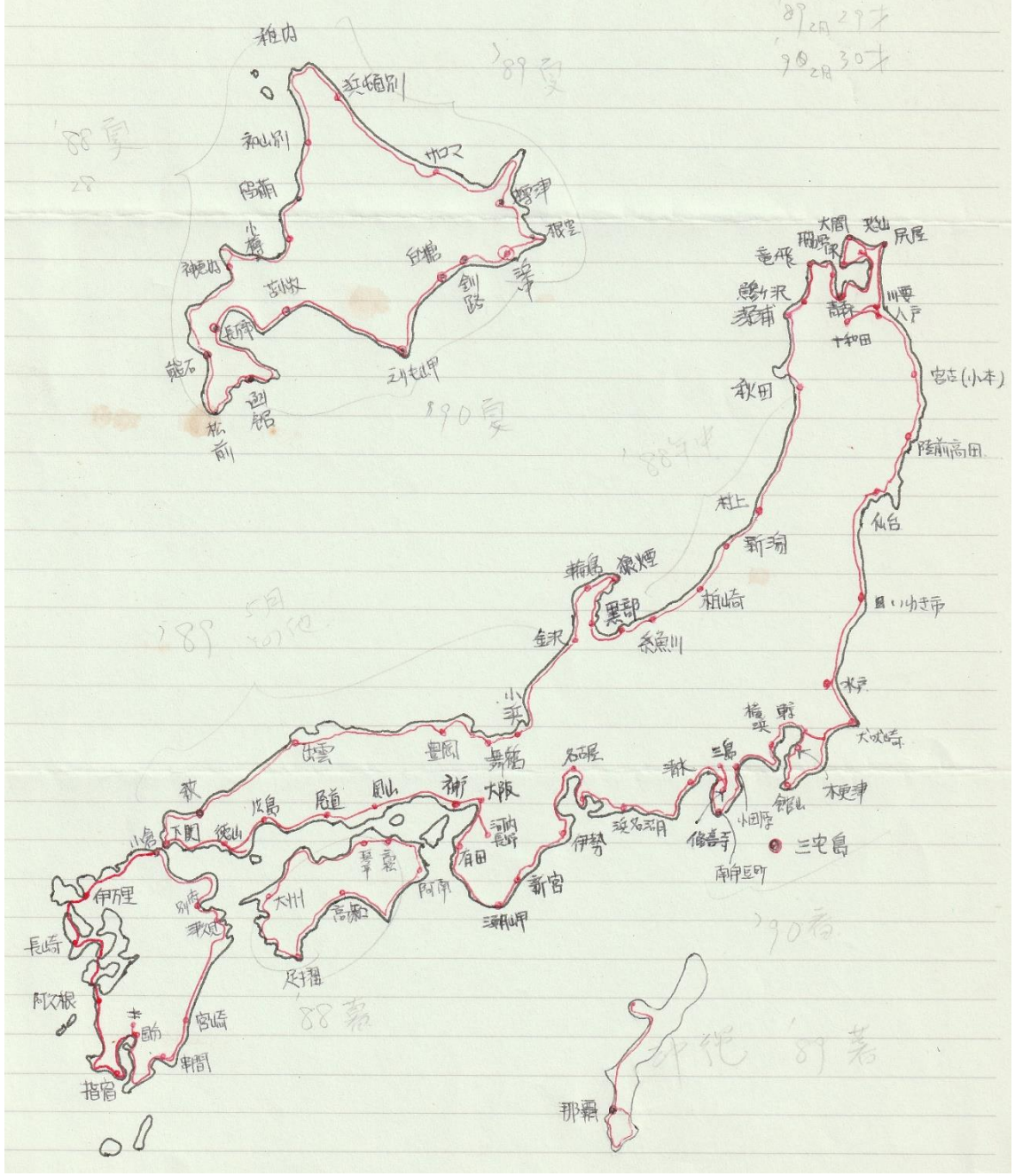


サイクル日本 走破図

1983 02 11 ~

88年 28才
89年 29才
90年 30才



 ** チャリンコ旅日記 No.1 **
 ** Resistance Of My Mind 19901215 **

<No>	《 行 跡 》	< 走行距離 >	<費用>
1, 1983年	2/11日から 13日 木更津 から 大網	238Km	¥17,330円
2, 1983年	3/4日から 7日 千葉市 から 仙台市	542Km	¥22,755円
3, 1983年	4/29日から5/5日 仙台市 から 八戸市	514Km	¥52,000円
4, 1983年	12/30日から1/3日 三島 から 名古屋市	437Km	¥40,550円
5, 1984年	7/27日から 30日 金沢市 から 能登(交通事故)	180Km	¥35,826円
6, 1984年	12/28日から1/3日 名古屋市 から 紀伊半島	748Km	¥59,760円
7, 1985年	12/28日から1/4日 大阪 から 下関市	620Km	¥83,000円
8, 1986年	7/26日から 29日 輪島市 から 黒部	292Km	¥28,040円
9, 1986年	8/9日から 16日 下北, 津軽半島	790Km	¥60,743円
10, 1986年	12/29日から1/4日 下関 (大分) 鹿児島	840Km	¥120,390円
11, 1987年	5/2日から 4日 青森市 から 秋田市	223Km	¥40,560円
12, 1987年	12/27日から1/2日 下関 (長崎) 鹿児島	700Km	¥126,143円
13, 1988年	8/10日から 21日 函館 (稚内) 釧路	1,738Km	¥161,343円
14, 1988年	12/29日から1/4日 四国一周	908Km	¥102,066円
15, 1989年	5/1日から 7日 函館 (襟裳岬) 釧路	885Km	¥94,290円
16, 1989年	8/12日から 16日 下関 から 舞鶴	663Km	¥75,025円
17, 1989年	9/8日から 10日 秋田市 から 村上市	224Km	¥42,146円
18, 1989年	11/10日から 12日 金沢市 から 舞鶴	255Km	¥35,507円
19, 1989年	12/30日から1/2日 沖縄	236Km	¥168,890円
20, 1990年	1/7日 日帰り 村上市 から 新潟市	60Km	¥19,185円
21, 1990年	1/13日から 15日 新潟市 から 黒部市	206Km	¥34,621円
22, 1990年	1/21日 日帰り 木更津 から 横浜	102Km	¥11,981円
23, 1990年	1/27日から 28日 伊豆半島一周	254Km	¥23,025円
24, 1990年	2/3日 日帰り 小田原 から 横浜	120Km	¥15,189円
25, 1990年	2/11日から 12日 早春の館山	72Km	¥25,310円

合計走行距離	11,847Km	平均走行時速	16.5 Km/h
合計費用	¥1,495,675円	パンク回数	8回
交通費	¥657,150円 (全体の44%)	ユースホステル宿泊数	48回
1Km当たりの費用	¥126円	宿泊3回 YH	下関火の山YH
旅行日数	117日	宿泊2回 YH	浜中YH
全走行時間	29日23時34分	野宿	館山YH
休憩時間	4日23時14分 (全体の17%)		3回

表は、1983年2月から始まった自転車旅行の行程をまとめたものです。日本一周と言うと、会社を辞めたり、長期休暇を取って行るのが、社会人としては普通のやり方になっています。私の場合は、会社の休暇を利用して、自転車で日本各地を走り回り、7年後にトータル的に日本を一周することができました。もちろん偶然にこうなった訳ではありません。最初の頃は、ただの旅行でしたが、何時の頃からか自分の部屋に日本地図を貼り、自転車で走った跡を赤くマーキングしていました。その形は日本の海岸線に似ていて、休暇が終わるたびに先へ先へと延びて行きました。

自転車は、旅行用とか競技用のもので、手軽に分解する事が出来て専用の袋に詰めて10Kg位。電車に乗る時も手回り品キップを買えば、車内へ持ち込むことが出来ます。電車や飛行機で目的地まで移動して、そこから自転車を組み立てて走り出します。ただし、重い荷物は背中に背負っています。そして自転車で走り終わった所から電車や飛行機に乗って帰ってくるわけです。

こんな事を7年間続けた結果、150万円近い費用を掛けて、約1万2千Kmの日本一周の旅が終わりました。

仕事や恋にいつも中途半端だった私への、

20代のレジスタンス。

諦めたくなかった、

投げ出したくなかった。

そんな思いが、日本一周。